

私立大学研究ブランディング事業

R1年度の進捗状況

学校法人番号	061002	学校法人名	東北公益文科大学		
大学名	東北公益文科大学				
事業名	日本遺産を誇る山形県庄内地方を基盤とした地域文化とIT技術の融合による伝承環境研究の展開				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	960人
参画組織	公益学部(公益学科)、大学戦略会議、研究活動推進委員会				
事業概要	<p>山形県庄内地方は「北前船寄港地」をはじめ文化庁の日本遺産に3件が認定されている。歴史的景観が数多く現存されている一方、踊りや民俗芸能等の無形文化財は少子高齢化や人口減少に伴い、新しい伝承手法と記録・保存方法が求められている。</p> <p>本事業では庄内の文化財について、社会科学研究アプローチを基に情報技術で地域資源に新しい視点を創る研究を展開し、庄内唯一の4年制私立大学として地域の魅力創出と発信に貢献する。</p>				
①事業目的	<p>山形県では文化庁の日本遺産に3件が認定されており、そのすべてが庄内地域に位置している。歴史文化が数多く現存する庄内地域で、建物や風景など有形の文化財は歴史的景観として保存されている一方、踊りや民俗芸能等の無形の文化財は少子高齢化や地域の人口減少に伴い、新しい伝承手法と記録・保存方法が求められている。</p> <p>本事業では開学以来培った地域研究を基礎に、観光や創業につながる地域資源の掘り起こし研究を発展させていく。さらに、踊りや能等、人による「伝承」を必要とする庄内地域の無形文化財については、バーチャルリアリティ技術(VR)やモーションキャプチャ(mocap)、CGアニメーション等、メディア情報の技術による新しい伝承方法を開発する。舞(黒川能・鶴岡市など)、踊り(酒田甚句・酒田舞妓など)、山伏修行(鶴岡市)、北前船航路(酒田市)等をIT技術でデータ集積し、さまざまなメディアで発信の可能性を検討し、観光施設でのバーチャル体験等への応用についても研究する。</p> <p>本事業の取り組みにより日本遺産を庄内地域のさまざまな文化資源と結びつけ、情報技術を用いて付加価値を高めることで、新しい庄内の魅力発信につなげることを目的とする。</p>				
②R1年度の実施目標及び実施計画	<p>■研究目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域資源の掘り起こしと分析についての活用計画の立案と実施 2. モーションキャプチャ等ITを活用した地域の民俗芸能の記録・実施 3. 民俗芸能の伝承環境構築の実施・研究状況の公開・見直し 4. 地域資源を活用する人材育成プログラム実施 <p>1～4 シンポジウムの開催</p> <p>■ブランディングに関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益大のブランディングにかかる状況把握と見直し・改善 <p>■研究に関する計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ITを活用して見える化できる地域資源の活用計画に沿い、実行、公表していく。 2. モーションキャプチャ等ITを活用した地域の民俗芸能の記録の試行 3. 民俗芸能の伝承環境構築の実施・研究状況の公開 4. 地域資源を活用する人材育成プログラム実施 <ul style="list-style-type: none"> ・1～4の研究についてシンポジウムを開催し、地域研究の進捗状況を報告するとともに、IT化した地域資源の活用について外部から意見を伺う。 <p>■ブランディングに関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランディング推進委員会の運営 ・公益大のブランディングにかかる状況把握、認知度調査を行う。ブランドイメージ調査としてアンケート調査(オープンキャンパス(OC)、在学生向け、保護者向け)、公開講座、シンポジウム等を行う。 				
③R1年度の事業成果	<p>1. 地域資源の掘り起こしと分析・活用研究</p> <p>[まちの記録、活用研究] (担当:渡辺准教授、小関講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市加茂地区の街並み撮影、画像・映像資料、住民保有の写真等の蒐集 4月～3月 ・酒田市日向・福山地区の写真・映像による記録 (6月～8月。前年度より継続)。福山神楽「獅子舞」についてmocapによる記録収集。地区の自治会や子ども会等と連携し、住民参加型で実施した。 ※伝承環境mocapチームとの協働で実施。 <p>[ストリートマップの自動運用展開と多言語展開への検討] (担当:広瀬准教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度で素材を集めたストリートマップをR1年度は、ある程度の自動化を進めるとともに適用対象を絞り一般公開した。多言語化も検討に着手した。さかた産業フェアでの出展、鶴岡市シルクノチカラでの発表を通じて、試行的に庄内地域のデジタルアーカイブマップ公開した。 <p>[ドローンを活用した松ヶ岡開墾場のデジタル撮影] (担当:広瀬准教授、唐助教) 5月～</p> <p>[バーチャルさくらんぼ狩り] (担当:唐助教) VR による地域資源活用研究の展開</p>				

<p>③R1年度の事業成果</p>	<p>2. モーションキャプチャ(mocap)等ITを活用した地域の民俗芸能のアーカイブ化 (担当: 玉本特別招聘研究員、唐助教) ・黒川能、酒田甚句等のmocapデータ収集、VRによる地域資源活用の研究</p> <p>3. 民俗芸能の伝承環境構築とその展開 (担当: 玉本特別招聘研究員、担当: 三浦特任助教) ・黒川能で採取したmocapデータを分析。アニメーション画像作業、CGモデル制作 ・アイカメラを活用した民俗芸能学習者の視点の研究 ・新たな表現手法、複数台のレーザープロジェクターを連動させた表現 - 深度センサーを用いた3Dモーションシステム、アーカイブ対象物の3Dスキャン - 360度カメラで撮影した画像を活用できるWebシステムの開発</p> <p>4. 地域資源活用の人材育成 ・昨年度に引き続き高校生以下向け、小学生向けプログラミング講座を実施した。(R1年7月20.21日、8月3.4日に開催) 全体について ・H30年度先進地として訪問した岐阜女子大学の久世均先生を招聘し、講演とシンポジウム及び意見交換を行った。 ・シンポジウムは昨年度に引き続き、荘内銀行の「公益信託荘内銀行ふるさと創造基金」の助成資金を得て開催した。 ・公益学部各コース横断の研究推進4チームの打ち合わせ会議(R1年度は3回開催)を行い、進捗状況を確認するとともに、シンポジウム・研究発表等の準備を行った。 ・ブランディング推進各チームそれぞれに研究発表(島根9月、新潟10月、沖縄11月、本学12月)で研究発表を行うとともに、研究発表の概要を「東北公益文科大学ブランディング事業関連論文集第37号別冊」(2020年3月30日発行)にまとめた。(この論文集は東北公益文科大学リポジトリより学外でも閲覧可能) ・学内の「文化財デジタル化研究所」が、地域で展開される文化財のデジタル化について各担当者と意見交換を行った。 ・オープンキャンパス等での高校生の認識度調査、入学生アンケート等、学内外でのアンケート調査も積極的に行った。地域住民アンケートについては、酒田市産業フェア(10月)市民と交流しながらデータを収集した。また、「シルクノチカラ(鶴岡市の高校、シルク産業振興企業が参加)」イベントに初参加し、研究成果を高校生、一般市民に広く発表した。</p>
<p>④R1年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 30年度当初から着手した「小学生向けプログラミング講座」はR1年度は酒田市教育委員会に加えて鶴岡市教育委員会からも協力をいただき、市内全小学5～6年生を対象にチラシを配布することができた。参加者(小学生と保護者)が継続して参加したいという要望があるため、今後の取り組みとして検討したい。</p> <p>採択初年度から取り組んできた民俗芸能をmocapでデータ取得し、アニメーション化する取り組みはR1年度も7演目を採取し、順調に研究が進んでいると評価できる。庄内地域の農園から協力いただき、手指のmocapとVRを使ったバーチャルサクラソウ狩りを試行し、産業フェアで展示したところ市民に多くの関心をいただいたことも評価できる。</p> <p>H30年度からの酒田市産業フェア等への参加により本事業を地域企業に知っていただけたことも成果となった。今後と地元企業との交流を図りながら、事業を推進していく。また、R1年度は鶴岡市のシルクイベントとも連携し、鶴岡市の担当から本学の研究について意見を伺う機会をいただいたことも大きな成果となった。</p> <p>(外部評価) ・デジタルアーカイブ学会での研究発表はコロナウィルス感染症対策の関係で学会は開催されなかったが、「デジタルアーカイブ学会誌」4巻(2020)2号に掲載された。 [A34] 伝統空間のデータ化と閲覧システムの有効性と課題: データ化手法・閲覧形態の違いにおける「思い出」想起の差異を通して (渡辺 暁雄, 三浦 彰人, 小関 久恵) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsda/4/2/4_128/_article/-char/ja 令和元年度はブランディング担当教員の研究発表が数多く実現された。このことは研究として高く外部評価されていると認識している。</p> <p>学外で開催したシンポジウム・研究発表・イベント等で市民及び企業、また高校生、新入生等にアンケートを実施し、外部からの認知度の確認は随時行い、事業評価に役立てた。また、本事業について、理事会、評議員会(9月と5月)に進捗状況並びに事業報告を行った 結果として令和元年度入学志願者、入学生ともに増加した。前年度比で志願者が77名、受験者は83名と増加したことから、大学全体の認知度が向上していると言える。</p>
<p>⑤R1年度の補助金の使用状況</p>	<p>庄内地方の地域資源・民俗芸能のアーカイブ化について、より高い精度で記録するため、下記の通り研究設備を購入した。</p> <p>①アイカメラ装置 一式を令和元年6月6日に購入 ②360度カメラInsta360 ONE X 2台を令和元年6月24日に購入 ③動画・画像処理用ノートパソコン3台を令和元年7月5日に購入 ④ドローン2台を令和元年7月18日に購入 ⑤グラフィックボードを令和元年9月12日に購入 ⑥ワイヤレス生体計測装置を令和2年2月18日に購入</p> <p>これらの設備を使用し、新たなデータの収集も行き、計画通り研究のブランディング化を推進した。</p>